

海岸漂着ごみの清掃活動等の実施状況（平成 26 年度）

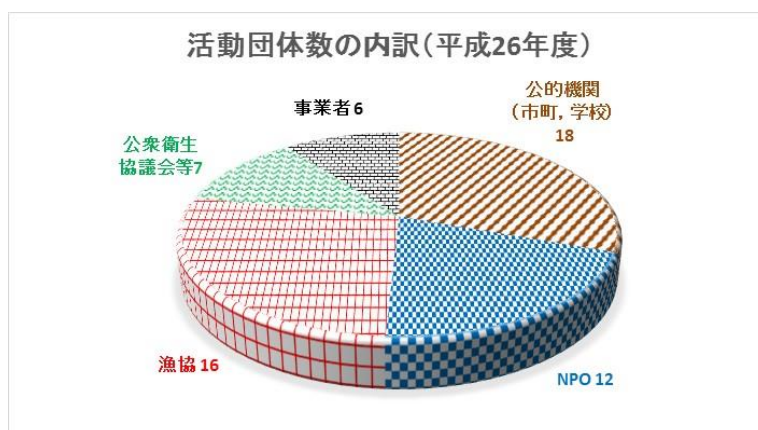
県内の海岸漂着ごみの実態を把握するため、県、市町、海岸管理者、海岸清掃を実施しているボランティア団体等にアンケート調査票を送付・回収し、平成 26 年度における県内の海岸漂着ごみの発生・回収・処理の状況等を把握した。

1 海岸清掃の活動状況

（1）清掃活動の実施団体

アンケート調査にて、平成 26 年度は 59 団体における海岸清掃の実施を把握した。

業態別内訳は、公的機関（市町、学校）が 18（31%）、漁協が 16（27%）、NPO 等団体が 12（20%）、公衛協等団体が 7（12%）、事業者が 6（10%）であった。



（2）海岸清掃の実施場所、実施回数及び参加人数

①実施場所

59 団体における県内の海岸清掃の実施場所は 64 カ所であった。

市町別では、呉市が 17 カ所（全体の 26.6%）で最も多く、次に廿日市市、尾道市と福山市がそれぞれ 8 カ所（12.5%）、江田島市が 7 カ所（10.9%）などであった。

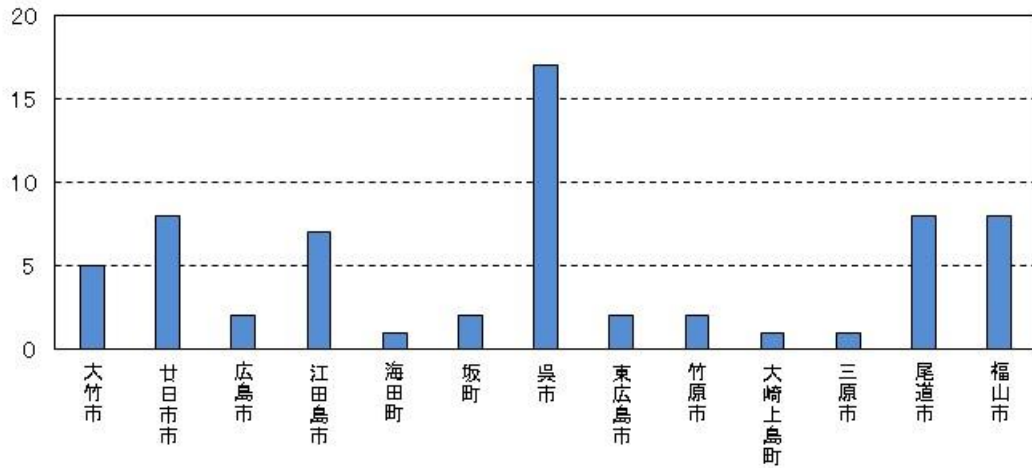
②実施回数

海岸清掃の実施回数は、全体で 112 回清掃され、そのうち呉市が 36 回（32%）と最も多く、次に廿日市市が 20 回（18%）、江田島市が 15 回（13%）などであった。

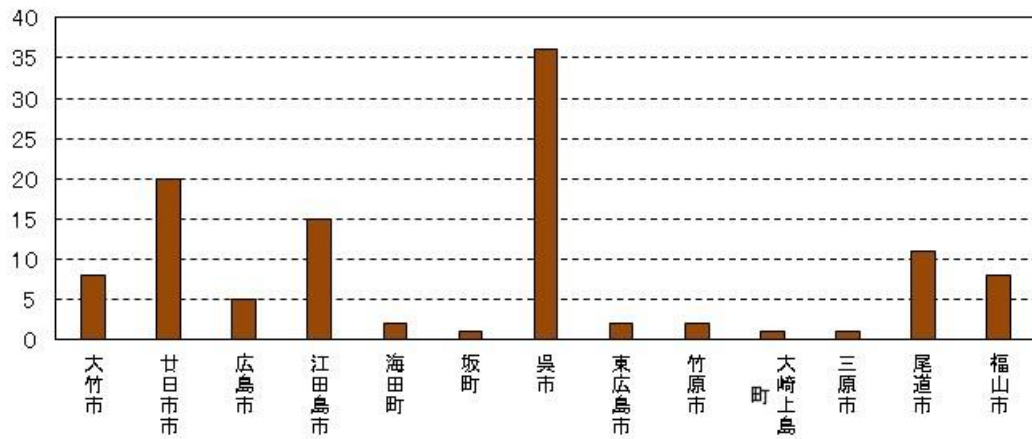
③参加人数

海岸清掃の参加人数は、全体で約 12,300 人であった。そのうち海田町が約 4,000 人と最も多く、次に呉市が約 1,500 人、廿日市市と尾道市が約 1,400 人、江田島市が約 1,000 人などであった。

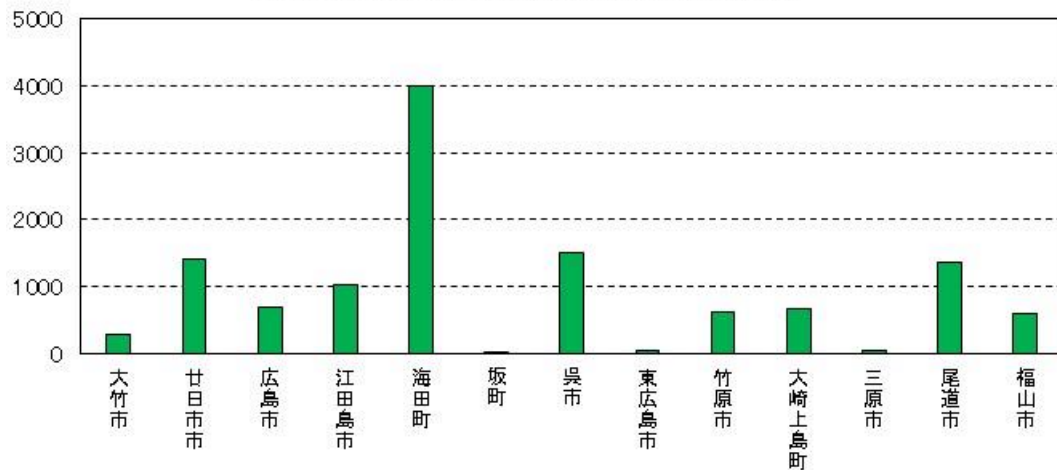
市町別の海岸清掃場所数（平成26年度）



市町別の海岸清掃実施回数（平成26年度）



市町別の海岸清参加者人数（平成26年度）



【海岸清掃の実施を把握した場所】

	市町	清掃した海岸等		市町	清掃した海岸等
1	広島市	元宇品海岸・みなと公園	33	呉市	倉橋町鹿島瀬戸
2		丹那港湾内	34		下蒲刈町大野海岸・海田海岸・大地蔵港
3	廿日市市	宮島入浜海岸	35		蒲刈町恋ヶ浜・県民の浜・B&S 海洋センター付近
4		宮島腰細浦海岸	36		蒲刈町初神浜
5		宮島包が浦海岸	37		蒲刈町鯖床浜
6		宮島杉之浦海岸	38		川尻町神田造船所前海岸
7		宮島厳島神社周辺海岸(網之浦/西松原/御笠浜/有之浦/長浜/小魚切)	39		安浦町七浦海岸
8		大野鳴川海岸	40		安浦町三津口湾
9		地御前海岸・漁港周辺	41		豊浜町大浜・立花海岸
10		阿品海岸	42		豊浜町豊島海岸
11	大竹市	阿多田島沿岸	43	東広島市	安芸津町風早
12		飛石港周辺	44		安芸津町木谷・三津
13		小方港周辺	45	竹原市	大久野島東海岸
14		玖波地区沿岸	46		的場海岸
15		小方南港周辺	47		大崎上島町
16	江田島市	長瀬海岸	48	三原市	すなみ海浜公園
17		入鹿海岸	49	尾道市	向島干汐海岸
18		鷺部・矢の浦港海岸	50		向島大町海岸
19		三高港海岸	51		向島立花釣ヶ浜海岸
20		江南内海地区海岸	52		浦崎町全域
21		大柿町飛渡瀬海岸	53		百島町全域
22		沖美町沖地区海岸	54		因島土生町
23	海田町	瀬野川河川敷	55	因島三庄町	
24	坂町	ベイスайдビーチ坂	56	瀬戸田サンセットビーチ	
25		坂なぎさ公園(平成ヶ浜海岸)	57	福山市	松永湾
26	呉市	仁方皆実港, 本町港, 戸田港	58		柳津町柳津漁港周辺
27		音戸町大浦崎海岸	59		仙酔島
28		倉橋町家ノ元港	60		鞆町平地区, 原地区, 江の浦地区, 石井地区
29		倉橋町尾立港	61		宇治島
30		倉橋町室尾港	62		内海町横山海岸
31		倉橋町海越海岸	63		内海町箱崎漁協周辺
32		倉橋町鹿老渡港	64		沼隈町海岸一円

【備考】天候不良により平成26年度は中止となった海岸清掃(通常は毎年7月頃に実施)

- ・坂町海岸全域
- ・三原市鷺浦町田野野浦

2 海岸漂着ごみの回収・処理状況

平成 26 年度（1 年間）の海岸清掃で、回収したごみ量及び種類を調査した。

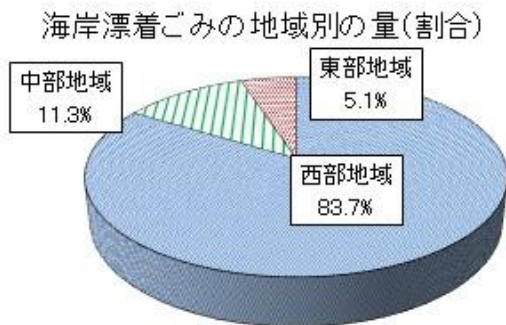
ごみの種類は、自然系と人工系の割合（重量ベース、以下同じ）、自然系は流木類、海藻類、人工系はプラスチック、発泡スチロール、ガラス・金属類、建築資材等の割合を調査した。

（1）県全体の回収状況

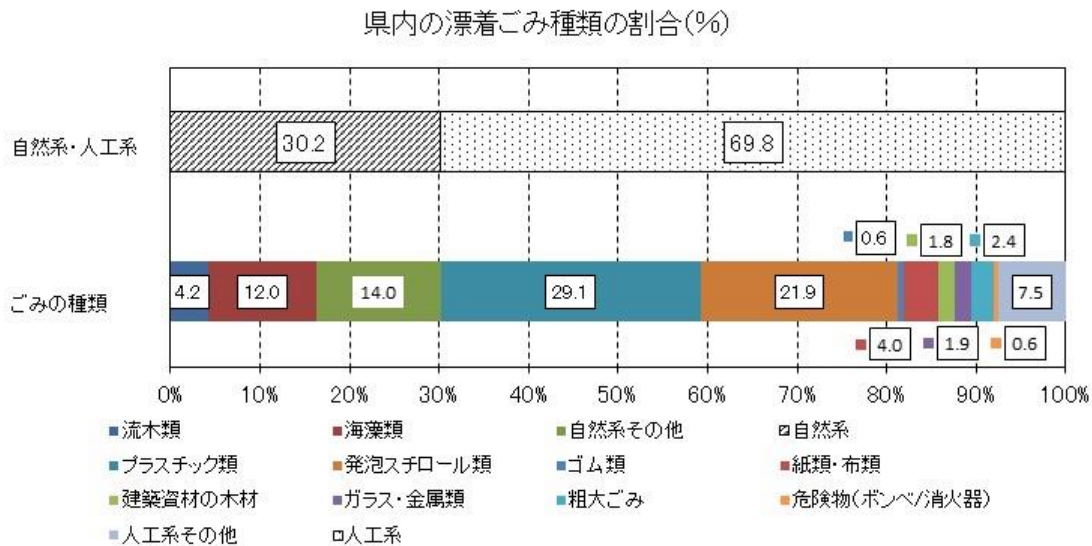
県内の海岸清掃で回収されたごみ量は、約 312 トンであった。

ごみ量を西部、中部、東部の地域別に見ると、西部地域が 261.0 トン（83.7%）とかなり多く、次に中部地域が 35.2 トン（11.3%）、東部地域が 15.8 トン（5.1%）であった。

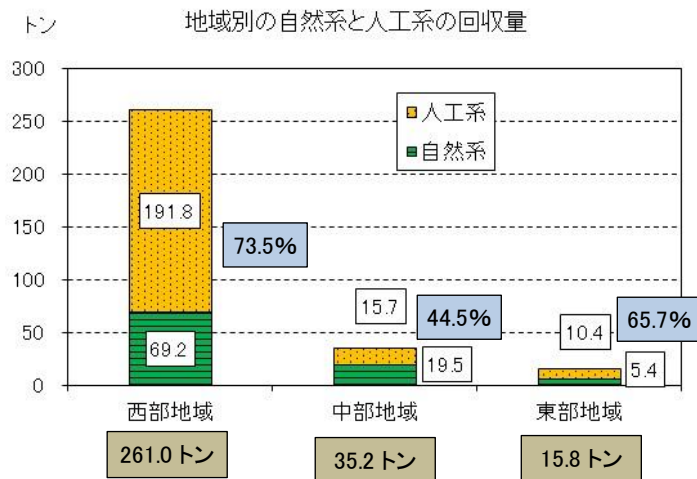
※西部地域: 呉市倉橋島以西、中部地域: 呉市倉橋島以东～尾道市高根島、東部地域: 尾道市高根島以东



ごみ量を自然系と人工系の割合で見ると、自然系が 30.2%、人工系が 69.8%であった。

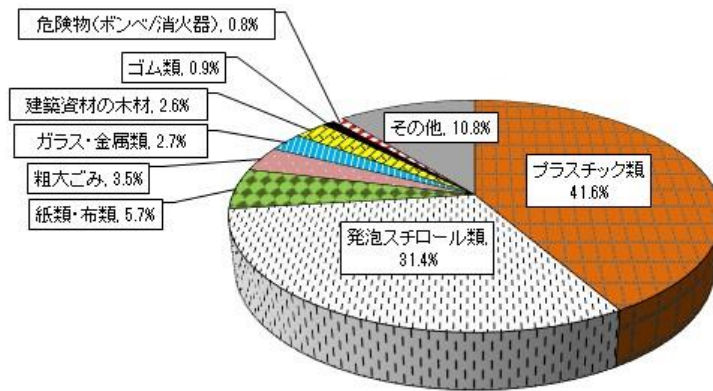


自然系と人工系のごみ量を地域別に見ると、人工系の割合は、西部地域が 73.5%、中部地域が 44.5%、東部地域が 65.7%で、西部地域、東部地域では人工系の割合が高いのに対し、中部地域では自然系の割合が高かった。



県内の人工系ごみ量 (217.8 トン) を種類別に見ると、プラスチック類が 90.7 トン (41.6%)、発泡スチロールが 68.4 トン (31.4%)、紙類・布類が 12.4 トン (5.7%) などであった。

県内の漂着ごみ種類別(人工系)の割合 (%)

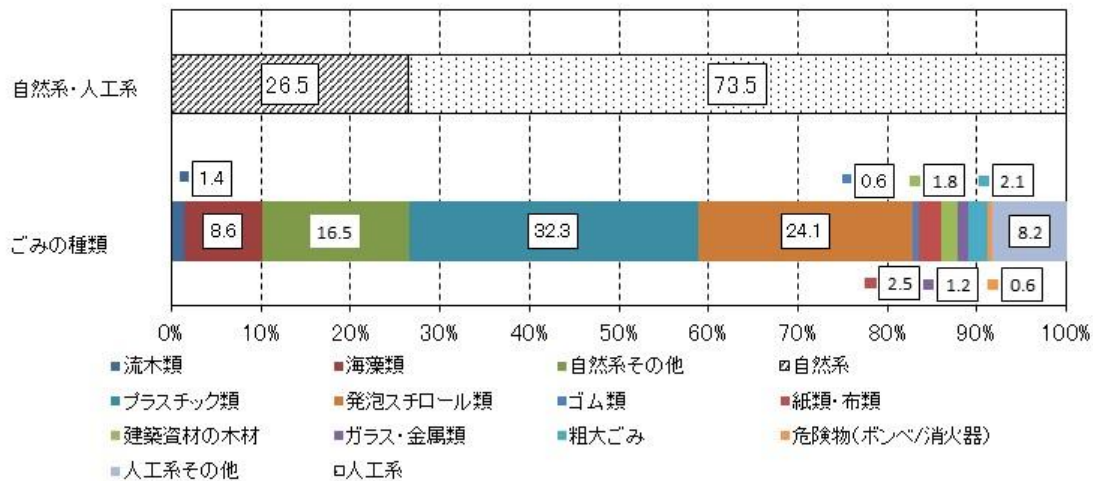


(2) 地域別のごみの種類と量

①西部地域

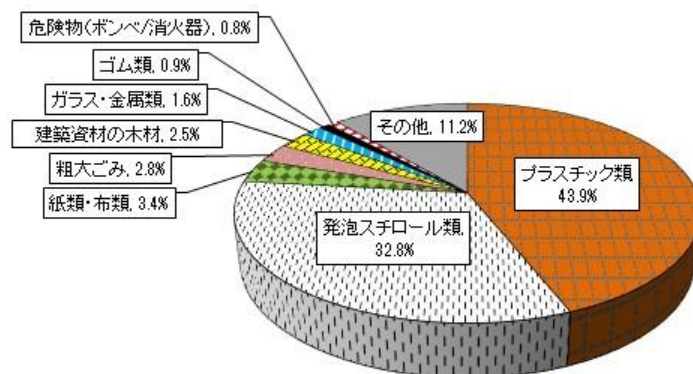
西部地域の自然系と人工系の割合は、自然系が 26.5%、人工系が 73.5%であった。

西部地域の漂着ごみ種類の割合 (%)



人工系のごみ量は 191.8 トンで、種類別に見ると、プラスチック類が 84.3 トン (43.9%)、発泡スチロールが 62.9 トン (32.8%) であり、この 2 種類で人工系ごみの約 4 分の 3 を占めている。これらの多くはカキ筏のパイプ、リング等のプラスチック類、フロートの発泡スチロールであり、これらはカキ養殖から発生したものと推定される。

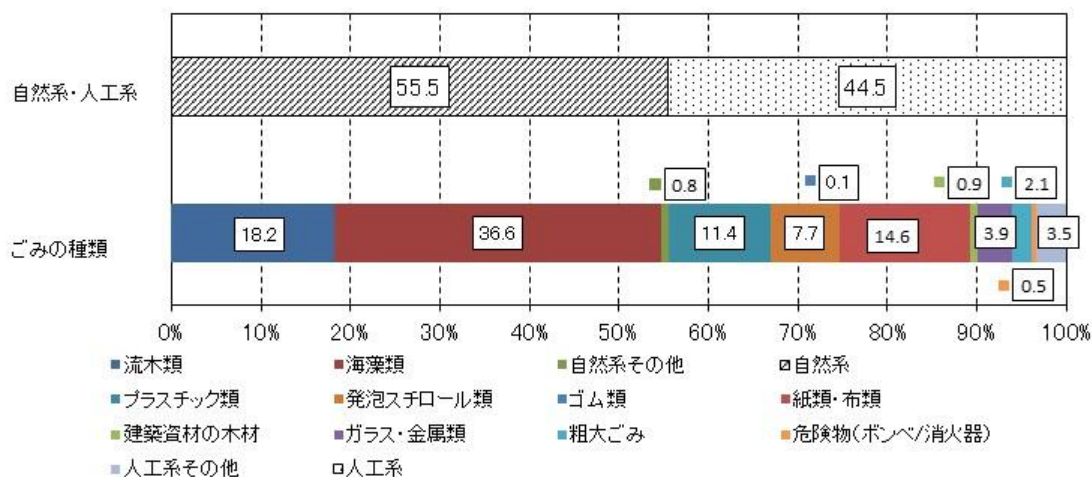
西部地域の漂着ごみ種類別(人工系)の割合(%)



②中部地域

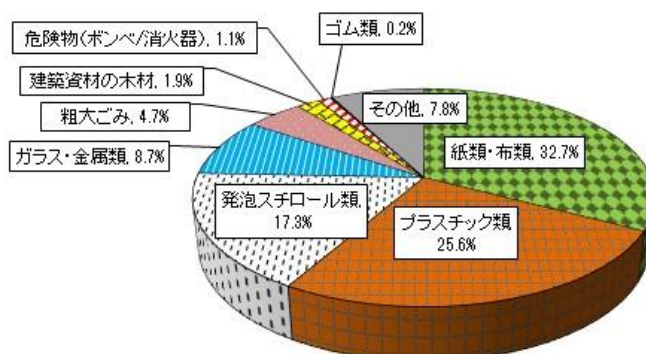
中部地域の自然系と人工系の割合は、自然系が 55.5%、人工系が 44.5%であった。

中部地域の漂着ごみ種類の割合(%)



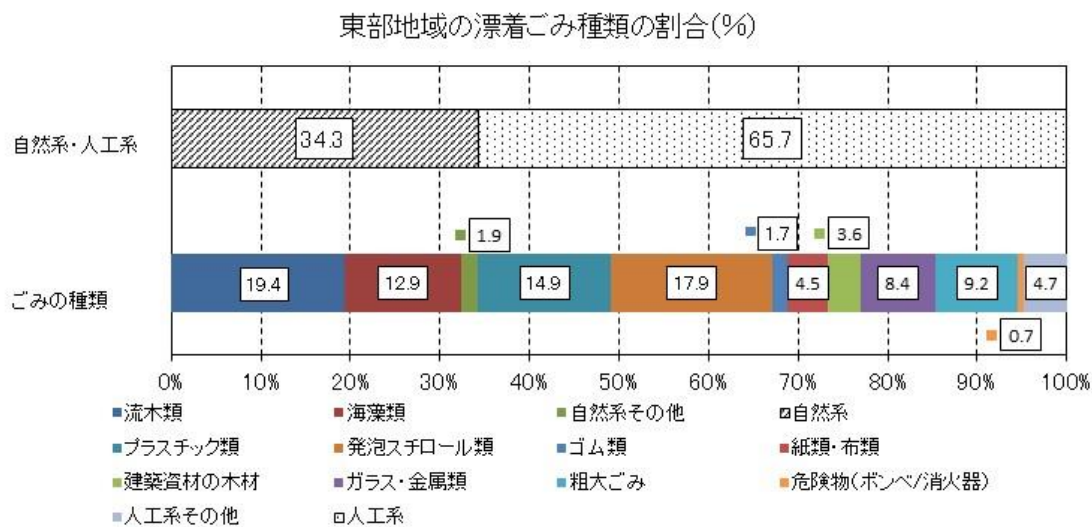
人工系のごみ量は 15.7 トンで、種類別にみると、紙類・布類が 5.1 トン (32.7%)、プラスチック類が 4.0 トン (25.6%)、発泡スチロールが 2.7 トン (17.3%) であった。西部地域に比べて割合が少ないものの、カキ筏のパイプ、フロートなどのプラスチック類、発泡スチロール類の占める割合が人工系ごみの 4 割以上であった。

中部地域の漂着ごみ種類別(人工系)の割合(%)



③東部地域

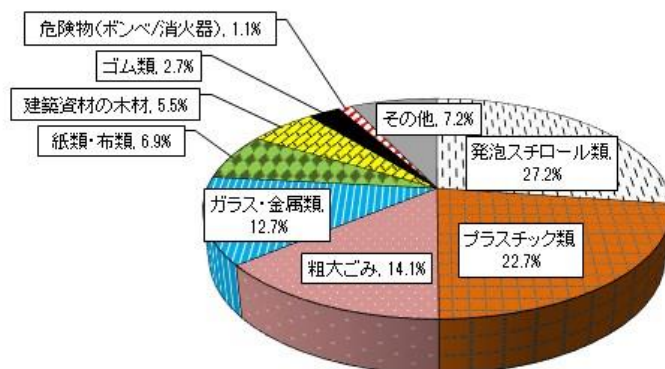
東部地域の自然系と人工系の割合は、自然系が34.3%、人工系が65.7%であった。



人工系のごみ量は10.4トンで、種類別にみると、発泡スチロールが2.8トン(27.2%)、プラスチック類が2.3トン(22.7%)であり、これら2種類で人工系ごみの約半分を占めている。

また、西部地域、中部地域に比べて粗大ごみ割合が高かった(14.1%)

東部地域の漂着ごみ種類別(人工系)の割合(%)



3 回収したごみの処理方法

59団体による海岸清掃活動において、回収したごみは、市町処分(市町への直接搬入を含む)が55団体(93.2%)、民間委託が4団体(6.8%)で、ほとんどが市町による処理がされていた。